

平成25年度

医薬品包装セミナー

医療現場／患者を取り巻く環境と 医薬品包装に求められる役割

日時

平成26年3月28日(金)

会場

(公社)日本薬学会 長井記念ホール

主催

公益社団法人日本包装技術協会

プログラム Program

時間	講演内容	講師
10:00 ▼ 11:10	<p>◆「在宅医療の現状と在宅の現場に求められる医薬品包装」</p> <p>超高齢社会を迎えている日本では、医療費の爆発的な増大により医療施策の変更が余儀なくされています。医療費の削減を目指して療養者病床を中心に退院が着実に促され、いまや在宅医療の対象者は、希望の有無に拘らず増加の一途です。患者が在宅で療養生活を送る上で、在宅医療体制の構築は必要不可欠であり、在宅医療をスムーズに提供できる積極的な取り組みが、あらゆる場面で求められているでしょう。医薬品包装への工夫も、まさに在宅医療を充実させる1つの柱だと思います。今回、自宅と施設における在宅医療の現場で活動する薬剤師を育成して参りました立場から、在宅医療の現状をご紹介しますとともに、そこに求められます医薬品包装の具体例を、患者の視点と調剤者の視点からご提案させていただきたいと考えております。今回のお話がよりよい医薬品をご提供されようとしておられる皆様の何らかのヒントに繋がりましたら幸いです。</p>	<p>シップヘルスケアファーマシー 東日本株式会社 教育研修部 部長/主任研究員 川村 和美 氏</p> <p>コーディネーター</p> <p>大日本印刷(株) 包装事業部 メディカル・ヘルスケア本部 営業開発部 市場開発チーム 部長 岩村 泰造 氏</p> <p>岡田紙業(株) 本社営業部 営業第2課 課長 堤 正一 氏</p>
11:20 ▼ 12:30	<p>◆「小児誤飲防止と服用遵守の対応事例」</p> <p>日本国内においては小児の誤飲防止対策としてCRSF(チャイルド・レジスタント・シニアフレンドリー)を採用すべきと一部病院関係者の声としてはありますが、行政的には奨励文書が出されたに過ぎません。しかし、一部外資系医薬品メーカーにおいては、その必要性を認め企業の姿勢として採用されています。一般的には、CRSFとアドヒアランス(服用遵守)は別々のものと考えられていますが、その機能と必要性は同一の枠で考えるべきだと思います。米国においては、CRSFは特別な機能ではなく通常のパッケージであり、法制化されています。最近では、オバマ政権が推進する医療保険制度改革(通称オバマケア)における医療費の抑制策として、医薬品包装においてアドヒアランスの改善が出来る包装を求めています。今回、国内外の包装事例、法的側面等よりご紹介させていただくことにより、今後の医薬品包装のあり方にひとつのご提案をさせていただきます。</p>	<p>株式会社カナエ 専務取締役 田中 勝人 氏</p> <p>コーディネーター</p> <p>藤森工業(株) 研究所 グループリーダー 鈴木 豊明 氏</p> <p>中外製薬(株) 製薬本部 生産工学研究部 製剤技術担当 友尻 吉弘 氏</p>
13:30 ▼ 14:40	<p>◆「自動認識技術が実現する患者安全」</p> <p>バーコード、ICタグ等を利用した自動認識技術の昨今の発展は目覚ましく、様々な領域で応用されている。その波は医療にも影響を及ぼし、様々な自動認識技術が応用されている。中でも製剤の運用に関わる自動認識技術の導入は医療分野の中でも古くから応用され、現在でも最先端を走っている。特に注射薬に関してはアンプル、バイアル、ボトルに貼付されたソースコードをどの様に利用していくかと議論がやっと本格化してきた。当院では2011年より、混注時にソースマーキングコードを読み込んで、間違いのない混注を行い得るシステムを導入している。これにより安全性は高まったと言えるが、一部の薬剤のバーコードが読みにくい、バーコードリーダーの設定が重要である。等の使用して初めて分かったような問題点も出てきている。本講演では、薬剤におけるソースマーキングの利用、ならびに自動認識技術の進歩に関して概説し、さらにその問題点や、薬品以外の自動認識技術の導入に関しても紹介したい。</p>	<p>京都第二赤十字病院 医療情報室長 医療社会事業部副部長 消化器科副部長 田中 聖人 氏</p> <p>コーディネーター</p> <p>(株)カナエ 東京支店 営業一部 部長 小濱 博信 氏</p> <p>ゼリア新薬工業(株) 生産技術部 液剤・軟膏グループ 課長 小俣 康司 氏</p>
14:50 ▼ 16:00	<p>◆「医療現場を見据えた医薬品包装とは」</p> <p>医療用医薬品の取り違え事故の防止のほか、ロット・有効期限管理、在庫管理などトレーサビリティの確保や医療用医薬品の流通効率化の推進を目指し、医療用医薬品への新バーコード表示が進められている。しかしバーコードは、医療現場において必ずしも有効利用されているとは限らないのが現状である。一方、医薬品の包装デザインに着目すると、その識別性、視認性を高めることにより、医療過誤を未然に防ぐ意味で非常に大きな役割を果たしている。病院・診療所では薬剤師だけではなく、医師・看護師等の医療従事者も注射剤をはじめとした様々な医薬品を取り扱う。また、病院薬剤部や薬局等において、医療用医薬品が実際どのように保管・陳列されているかは、施設規模や施設の電子化・システム化状況等の要因により施設毎で大きく異なる。現在発売されている医薬品の中には、医療安全を考慮した独自のパッケージやラベル、ユニバーサルデザインに基づいた包装デザインを採用する製薬企業も増加している。そのような現状において、どのような医薬品が採用されるのか、また実際にどのような医薬品包装が医療現場で問題となっているのか、さらに、医療現場で求められる医薬品包装の要件について事例を挙げながら紹介する。</p>	<p>横浜薬科大学 薬学部 薬剤学研究室 村田 実希郎 氏</p> <p>コーディネーター</p> <p>第一三共(株) 製薬技術本部 製剤技術研究所 包装研究グループ長 片山 通博 氏</p> <p>全薬工業(株) 一般用薬品開発本部 開発部 包装企画課 係長 溝呂木 太郎 氏</p>

講師のご紹介

川村 和美氏

シップヘルスケアファーマシー
東日本株式会社
教育研修部 部長/主任研究員

【ご略歴】
1995年 名城大学薬学部薬学研究所卒業
1997年 名城大学大学院薬学研究所修士課程修了
2001年 名城大学より学位受与
2006年 静岡大学人文社会科学研究所人間科学専攻
1997年 (医)敬仁会 桔梗ヶ原病院薬局勤務
1999年 (医)駿豊会 朝岡病院薬局長
2003年 (薬)スギ薬局 医療教育部主任研究員
2008年 スギメディカル(株) 教育事業部主任研究員
薬剤師、薬学博士、経営倫理士

田中 勝人氏

株式会社カナエ 専務取締役

【ご略歴】
1969年6月 (株)カナエ入社、営業部長、
開発部長歴任
2008年4月 同社 包装技術開発研究所設立
同所長兼任
2005年1月 取締役、2007年1月常務取締役、
2011年1月専務取締役
現在に至る

田中 聖人氏

京都第二赤十字病院
医療情報室長 医療社会事業部副部長
消化器科副部長

【ご略歴】
1990年 京都府立医科大学卒業
同年京都第二赤十字病院研修医
1992年 京都第二赤十字病院消化器科勤務
2000年7月～2001年7月 淀川キリスト教病院
消化器科
2001年7月 京都第二赤十字病院 消化器科
日本消化器病学会評議員、指導医
日本消化器内視鏡学会評議員、指導医

村田 実希郎氏

横浜薬科大学 薬学部 薬剤学研究室

【ご略歴】
1995年3月 明治薬科大学薬学部薬剤学科卒業
1996年5月 医療法人社団三思会東厚木病院入職
2006年4月 金沢大学大学院自然科学研究科入学
2007年4月 医療法人社団三思会東厚木病院薬剤科長
2009年3月 金沢大学大学院自然科学研究科修了
2011年1月 社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院薬剤部
2012年4月 聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院薬局長
2013年4月 横浜薬科大学薬学部薬剤学研究室講師
博士(薬学)・公益社団法人大和綾瀬薬剤師会監事・
一般社団法人日本病院薬剤師会組織強化推進部特別部員・
公益財団法人日本医療機能評価機構薬剤安全部員

開催要領

日 時：平成26年3月28日(金) 10:00～16:00
会 場：(公社)日本薬学会 長井記念ホール
東京都渋谷区渋谷2-12-15 TEL. 03(3406)3326
参加費：会員19,950円(消費税5%、テキスト代含む)
*同時に3名以上でお申込みの場合には割引価格として1名16,800円
一般30,450円(消費税5%、テキスト代含む)
定 員：100名

お申し込み方法

- 本誌申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込み下さい。
協会HPからのお申込みも出来ます。
協会HP:<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。申込みされた方が
ご都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えありません。
(当日受付にて名刺を頂戴します)

お問い合わせ並びにお申し込み先

公益社団法人日本包装技術協会 医薬品包装セミナー係
担当：竹内
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL. 03(3543)1189 FAX. 03(3543)8970
e-mail:takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「平成25年度医薬品包装セミナー」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は、開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

会場案内図

- 会 場：(公社)日本薬学会 長井記念ホール
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15
TEL. 03-3406-3326
- 交通手段
JR山手線、東急東横線、東急田園都市線、京王井の頭線、
地下鉄銀座線・半蔵門線の渋谷駅下車
JR渋谷駅東口より、高樹町方面へ高速道路3号線沿いに8分



平成25年度医薬品包装セミナー参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内 行 FAX.03(3543)8970 No.

会社名					
所在地	(〒)				
電 話			FAX		
参加者名	氏名	所属役職			e-mail
	氏名	所属役職			e-mail
	氏名	所属役職			e-mail